

令和3年度補正予算（総額10億4,608万3千円）を可決

9月
定例会

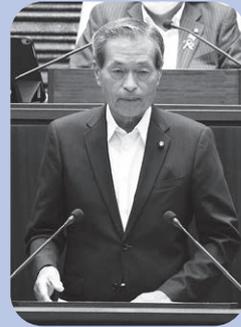
令和3年第6回9月定例会は、9月1日から9月21日まで開催され、議案18件及び報告5件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、議員13人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に2ページから7ページに掲載しています。



自民クラブ

白坂 均 議員



- (二般質問)
- 1 ひきこもり支援について
 - 2 不登校対策について

コミュニティ・スクール
今後の方向性は？

問

文部科学省の調査結果では、不登校児童・生徒の出現率は増加傾向にあり、

本市では、校内サポートルーム設置事業のモデル校に指定された西条南中学校にサポートルームを設置し、生活支援や学習支援を行うなど、重要課題として不登校対策に取り組んでいる。

このような状況の中、本市における不登校の現状やこれ

まで実施してきた不登校児童・生徒に対する支援策とその成果はどうなっているのか。また、全国的に広がりを見せているコミュニティ・スクールについて、本市総合計画では、いじめ、不登校に対応できるコミュニティ・スクールを増加すると設定しているが、現時点では、どのような方向性にあるのか。

答

本市においても、不登校児童・生徒数は増加傾向にあり、支援策として、学校に登校できない児童・生徒に適応指導教室で学習や運動の指導などを行っている。令和2年度の成果としては、

約2割の児童・生徒が適応指導教室から元の学校に戻ったことなどが挙げられる。今後とも令和3年度の、校内サポートルーム設置事業におけるモデル校の取組も生かし、不登校児童・生徒の支援に取り組みたい。

コミュニティ・スクールについては、現在、2つの学校をモデル校に指定し、研究を進めており、令和4年度から段階的にモデル校を増やし、

令和6年度には市内の全ての小・中学校をコミュニティ・スクールとすることを目標としている。

コミュニティ・スクールをベースに、不登校の課題について、学校と地域が協議を重ね、スクールカウンセラーなどの連携を図りながら、不登校児童・生徒の居場所づくりに努めたい。

また、生徒指導上の課題解決のために、地域を巻き込んだ支援をしている取組や、家庭教育支援チームによる取組とコミュニティ・スクールとの連携について研究していきたい。



コミュニティ・スクールモデル校の大町小学校

井上 浩二 議員



- (二般質問)
- 1 東予一般廃棄物最終処分場について
 - 2 新型コロナウイルス感染症の予防について
 - 3 市営住宅について

東予一般廃棄物最終処分場
更なる延命化の考えは？

問

東予一般廃棄物最終処分場は平成31年3月で満杯になる予定であったが、今でも搬入ができており、3年から4年程度の延命が行われている。しかし、埋め立ての限界が来ているように感じられており、今後の延命化を考えた場合、ごみの減量化を図るとともに、業者による事業系の一般廃棄物を持ち込ませない方法を検討する必要があると思うが、どのように考えているのか。